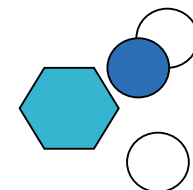
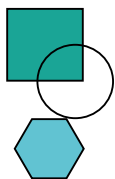


原発のない暮らしを実現するために

伊方で事故が起こると 暮らしは？ 被害は？



「原発のない暮らしを求めるえひめ県民署名」は、7月末の期限に向けてラストスパートです。
ほとんど国民に知られていない太平洋沖での深刻な被ばく。映像で確かめ、私たちの暮らしに重ねてみましょう。

2018年

5月11日(金)

内子自治センター
午後6時30分～7時30分

原発被害の映像と語り

語り手：和田宰さん

(伊方原発をとめる会事務局次長)

- ・報告 原発をめぐる状況
- 映像 ドキュメント「放射能とトモダチ作戦」から考える
- 映像 脱原発・再生可能エネルギーを考える
- ・原発のない暮らしを求めるえひめ県民署名について
- ・質疑・討論



写真は、被ばくの症状を語る元水兵たち

●福島原発事故のとき、救援に入ったアメリカの空母が福島沖約240キロで放射性プルームに覆われました。乗組員多数に、広島・長崎と酷似した症状が出て、すでに9名が死亡しています。この事実を、NNNドキュメントが昨年10月に報じました。

原発のない暮らしを求めるえひめ県民署名の会・内子

メール sekine9922@yahoo.co.jp TEL 090-8282-8290 (関根)

原発のない暮らしを求めるえひめ県民署名(県知事宛署名)にとりくんでいます。お知り合いにどんどん拡げてください。署名用紙やリーフレットは左記までご連絡いただければ、お届けします。